

2021年第4回定例会

## 一般質問

朝霞市議会 YouTubeチャンネル  
令和3年第4回定例会一般質問1日目(7時間35分35秒付近から)

## 1. イベントを日常につなげるために

## 市民参加のまちづくりと透明性の高い予算投入を

**ほんだ:**産業実態に係るアンケート調査では、商業地域全体の問題点として、「廃業する店が多い」「核になる店舗・事業所がない」という声が多く、小売業売場面積は2007年から2014年の間に26.0%と大幅に減少している。アサカストリートテラスなどのイベントから、出店者の実店舗営業につなげる工夫が必要ではないか。また住民から企画者や参加者、まちづくりのアイデアを発掘するための今後の取り組み、補助金の使途等イベント会計の透明性担保の取り組みは。

**市民環境部長:**出店者からはストリートテラスを通じて朝霞市に魅力を感じた等の声もあり、市内での起業につながるよう努める。補助金等の使途説明については関係団体と検討していく。

**都市建設部長:**今後のまちづくりには民間の多様なアイデアなどを活かしていくことが重要。民で実施可能なものは民主体とし、官主体は一部に留めたい。

## ほんだの視点

イベントを、楽しむだけではなく市民参加のまちづくりにつながるように今後も働きかけます。予算使途の透明性確保、市民への説明責任が果たされるよう、今後も市政チェックを行っていきます。

## 2. 住まいの貧困の解消

## 誰もが住まいを確保するための支援体制を

**ほんだ:**11月28日(日)に実施された賃貸住宅等入居相談会の結果をうかがう。今後、高齢者、障害のある方、ひとり親の方などに福祉政策と一体となった住居確保支援を行うことが必要ではないか。

**都市建設部長:**相談者は年齢層は40代から80代の男性4名女性8名計12名。今後、居住支援協議会の設置の検討は必要になる。相談会の取り組みを継続していくとともに、庁内の連携強化、不動産事業者との情報共有を図りつつ、住宅確保要配慮者への円滑な支援に努める。

## ほんだの視点

誰もが住まいを確保するための支援として居住支援協議会の設置を働きかけています。持ち家政策だけではなく、賃貸住宅を終の棲家とする方々への支援が求められています。

## 3. 介護政策の課題

## 入所待機解消・認知症施策・ケアラー支援への取り組みは

**ほんだ:**入所待機者の実人数の現状は。入所待機者が施設を転々としている状況があるとも聞かすが、入所待機者の居所の状況を把握しているか。認知症の早期発見・早期治療につながるための福祉と医療の連携の現状をうかがう。介護専門職がヤングケアラーを「介護者」と位置付けず、家族にとって介護が過度な負担になっていないか目配りするための取り組みは。**福祉部長:**特別養護老人ホームの入所希望者は147人、居所等の主な内訳は、医療機関が33人、介護老人保健施設が27人、在宅が32人。退所後の住居がないなど入所待機者の居所の実態把握ができていないのが現状。朝霞市は医師などの専門職5人と認知症地域支援推進員5人の認知症初期集中支援チームを設置、毎月のチーム員会議で支援が必要な事例への対応を検討している。ヤングケアラーは介護者の1人として数えられ、自分の生活や学業などに十分に時間を充てることができない状況となっている可能性もあり、必要な支援が行われているのかを捉える視点を持つことが重要である。ケアマネジャーの資質向上に努めていく。

## ほんだの視点

入所を待つ人が十分な介護を受けられる環境整備を働きかけていきます。認知症支援の専門性は高くなりつつあります。さらに認知症当事者と家族の気持ちに寄り添い、意思を尊重する支援を求めていきます。ヤングケアラー支援は複数の議員が質問し、多角的な議論ができました。

## 4. 新型コロナウイルスワクチン接種(3回目)

## 65歳以上の方は接種場所・日時を決めて接種券送付

**ほんだ:**3回目の接種の実施計画とワクチン供給についてうかがう。**子ども健康部長:**接種券と予診票が一体の用紙(A3サイズ)を接種が可能となる月の前月を目途に送付。65歳以上の方にはあらかじめ市の決めた日時、2回目接種をした医療機関での接種を通知。変更はコールセンターへの電話、ウェブサイトで行うことができる。ワクチン供給はファイザー社製約54%、武田/モデルナ社製約46%。ファイザー製で割り当てて接種日を決めているため、モデルナ社製を希望する場合は早期に接種できる。

## ほんだの視点

第1回・第2回の接種予約から改善を図り、65歳以上の方はすでに予約が取れています。変更手続き等へのご意見・ご相談はほんだまきこもうかがいます。お気軽にご連絡ください。